

令和6年度 梅南中学校のあゆみ

—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪府教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2-1 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

2-2 「大阪市版チャレンジテストplus」の調査の目的

- (1) 生徒及び保護者が、学習理解度及び学習状況等を知り、目標をもって主体的に学習に取り組めるようにする。
- (2) 学校が生徒一人ひとりの学力を的確に把握し、学習指導の改善及び進路指導に活用する。
- (3) 学びの連続性を確立する観点から、客観的・経年的なデータを把握、分析し、効果的な指導方法や課題を「見える化」し、その改善に役立てる。

3 「大阪市英語力調査（GTEC）」の調査の目的

- (1) グローバル社会において活躍し貢献できる人材の育成をめざし、生徒の英語力の充実・向上を図るため、本市教育振興基本計画に基づき、生徒に求められる英語力や学習の習熟過程等を把握・検証する。
- (2) 生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、生徒の英語力の実態を分析することにより、各学校における学習指導の充実や改善、工夫に役立てる。

4 「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の調査の目的

- (1) 子供の体力・運動能力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各国公立学校が全国的な状況との関係において自らの子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子供の体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各国公立学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

令和6年度 梅南中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

1 全国学力・学習状況調査

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均正答率(%)		平均無解答率(%)	
			国語	数学	国語	数学
3年	学校	35	55	51	5.0	12.7
	大阪市	—	56	51	4.1	12.5
4月18日	全国	—	58.1	52.5	3.9	11.3

2 中学生チャレンジテスト

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
			国語	社会※	数学	理科※	英語	国語	社会※	数学	理科※	英語
3年	学校	36	67.3	44.5	49.4	46.9	44.6	5.5	7.4	13.0	6.7	8.4
	大阪市	—	65.4	50.2	48.8	52.1	54.0	4.9	4.7	14.3	4.1	6.5
9月3日	大阪府	—	65.2	50.4	49.1	52.3	53.6	5.3	5.0	14.8	4.4	6.9
2年	学校	32	52.6	34.3	39.9	31.3	38.0	12.2	9.0	12.9	11.3	9.6
	大阪市	—	66.1	49.9	51.4	49.5	54.6	8.4	4.6	8.2	6.1	7.0
	大阪府	—	65.5	49.5	50.7	47.2	54.0	9.3	5.2	9.5	7.4	7.9
1年	学校	41	62.7	49.5	51.9	54.1	60.7	6.7	7.0	6.4	3.9	5.3
	大阪市	—	59.0	53.7	50.5	55.6	62.1	8.3	5.5	7.4	3.8	4.9
	大阪府	—	58.5	—	49.8	—	61.5	9.4	—	8.8	—	5.8

- ※ 1年生の社会・理科については、「大阪市版チャレンジテストplus」として実施
- ※ 1年生の理科は物理的領域を選択
- ※ 2年生の社会はA問題を選択 2年生の理科はB問題を選択
- ※ 3年生の理科はC問題を選択

3 大阪市英語力調査 (GTEC)

学年 実施月日		生徒数 (人)	読むこと	聞くこと	書くこと	話すこと
			【リーディング】	【リスニング】	【ライティング】	【スピーキング】
			(スコア)	(スコア)	(スコア)	(スコア)
3年	学校	35	98.5	100.5	140.5	87.6
	大阪市	—	105.7	104.6	149.6	102.1

4 全国体力・運動能力、運動習慣等調査

学年	生徒数 (人)	握力	上体 起こし	長座 体前屈	反復 横とび	20m シャトル ラン	持久走 男子1500m 女子1000m	50m走	立ち 幅とび	ハンドボール 投げ	体力 合計点
	44	(kg)	(数)	(cm)	(点)	(回)	(秒)	(秒)	(cm)	(m)	(点)
2年 男子	学校	30.28	29.65	45.13	58.50	81.12	-----	7.64	194.47	25.12	50.00
	大阪市	28.38	26.42	42.74	51.50	79.76	422.62	8.08	194.64	19.84	41.10
	全国	28.95	25.94	44.47	51.51	78.98	410.69	7.99	197.18	20.57	41.86
2年 女子	学校	21.67	21.50	45.17	49.33	50.79	-----	8.43	179.00	12.21	50.91
	大阪市	22.99	22.21	45.64	45.86	52.98	337.57	9.01	167.01	12.04	47.51
	全国	23.18	21.56	46.47	45.65	50.67	309.02	8.96	166.32	12.40	47.37

調査結果から

【成果と課題】

○全国学力・学習状況調査結果

<国語>

「話すこと、聞くこと」の領域に関しては、全国平均の58.8%に対して、57.1%と差を縮めることができた。「情報の使い方に関する事項」は全国平均よりも3.3%上回った。「我が国の言語文化に関する事項」も全国平均に対して7.3%上回った。しかし、「書くこと」に関しては全国平均よりも5.3%下回る結果となった。記述問題に課題が見受けられる。全体的には全国平均58.1%に対して本校が55%と3.1%全国平均には届かなかった。

<数学>

領域別でみると、「図形」に関しては大阪府、全国ともに約3ポイント平均を上回る結果となった。「関数」に関しては大阪府と比べて3.8ポイント、全国と比べて5.6ポイント平均を下回る結果となった。全体の平均でみると大阪府と同じ点数で、全国と比べると1.5ポイント下回る結果となったが、個別の問題でみると、大阪府や全国の平均を上回る問題も多く見受けられる。

○中学生チャレンジテスト(3年生)

<国語>

大阪府の平均を2.1ポイント上回った。「話すこと・聞くこと」については1ポイント、「書くこと」については0.4ポイントそれぞれ大阪府の平均を上回った。「我が国の言語文化に関する事項」においても1ポイント大阪府の平均を上回ることができた。しかし、「読むこと」に関しては0.1ポイント大阪府の平均を下回る結果となった。日々の取り組みの成果を発揮し意欲的に調査に臨む姿勢を見ることができた。

<社会>

大阪府平均と比較して、全体的に平均を下回る結果となった。また問題別に見たときに、単純な知識の定着に大きな課題が見られ、特に地理的分野についての知識が定着していない結果となった。

<数学>

平均点は大阪府と比較して、0.3ポイント上回る結果となった。大きく点差が開いた設問は無く、無回答率は府平均を1.8ポイント下回っている。

<理科>

成果:府平均52.3点に対して、本校は46.9点であった。(対府比0.90倍)本校では、25点未満の生徒が”35名中の9名”と、全体の”25%”もいる結果となってしまった。その他の生徒の結果はほぼ正規分布しており、学習への努力がみられた。

課題:低学力生徒、学習意欲が低い生徒に対する支援が必要である。学校だけではなく、各家庭の協力も必要になる。

<英語>

平均点が府平均より9点下回ったが、会話文の正答率が府平均を超えている間がある。英検2級取得者が2名いるため上位層はいるが中間層の理解度が低いことが課題である。

○GTEC(3年生)

受験を通じて、生徒が自分の英語力を客観的に把握できたことは大きな成果です。特にリスニングとリーディングのスコアが向上し、日頃の学習の成果が表れました。また、スピーキングやライティングの試験を経験することで、英語での表現力の重要性を実感する機会となりました。

一方で、スピーキングやライティングには個人差が大きく、発信力を強化する必要があることが課題として浮かび上がりました。授業内での英語発話の機会を増やし、表現力向上を図っていく必要があります。また、試験結果のフィードバックに時間がかかるため、結果をより効果的に学習に活かせる方法を検討していきます。

○中学生チャレンジテスト(1, 2年生)、チャレンジテストplus(1年生)

<国語>

1年生については小学生時の結果より6.6ポイント上回る結果となった。また、大阪府の平均よりも4.2ポイント上回った。すべての項目が平均よりも上回り、特に記述式の項目が0.9ポイント上回った。

2年生については1年次の結果より3.2ポイント上回る結果となった。特に書くことの項目が1年次の結果よりも0.7ポイント上回った。

<社会>

2年生と1年生について前年同比よりも値が下がってしまった。全学年通して、学力の変遷に課題が大きく、授業の抜本的な改革が必要不可欠である。

<数学>

1年生は大阪府の平均点よりも2.1ポイント上回り、領域別でみても全て大阪府の平均を上回る結果となった。

2年生は大阪府の平均点を下回る結果となった。また、1年次の結果より正答率で3.9ポイント下回っているが、設問によっては大阪府の平均を上回るものも見受けられる。

<理科>

理科は実験や観察からの出題が主になるため、全学年で実験や観察など、本物に触れる機会を多く取った。1・2年の復習をかねた実験等も行い、その結果がテストの点数としても表れていたように感じる。

<英語>

1年生については小学生次より-4.5ポイントという結果となった。全体的に大阪府平均だったが、「書くこと」に関しては大阪府平均よりも-2.2ポイントと下回った。

2年生については1年次より-5.6ポイントという結果だった。「聞くこと」「書くこと」の2つが大阪府平均よりも-6ポイントと大きく下回った。

調査結果から

【今後に向けて】

○全国学力・学習状況調査結果

＜国語＞

「書くこと」に関して苦手意識を持っている生徒が多いので、記述問題対策や、作文の練習もしていく。また、問題を解く速さが遅いため、無回答率の高さも目立ったため、時間を意識して問題を解く練習も取り入れていく。読解力を向上させるため、様々な文章問題をワーク等を活用しながら解かせていく。

＜数学＞

知識・技能の観点で見ると、大阪府や全国の平均を下回っていることから、まずは基礎の定着が必要である。日々の宿題や小テストを通して、基礎的な力を身に付け、あわせて発展的な問題にも取り組み、応用力の向上を目指す。

○中学生チャレンジテスト(3年生)

＜国語＞

各自の進路実現に向けて不得意分野の克服をめざし、個々に応じた学習目標を立てて取り組ませていく。また、古典、文法、読解問題など、習熟度に応じた難易度の異なる問題のうち個々に合った問題に取り組ませて、学力の定着を図っていく。また、入試問題等も実際に時間を計って解かせ、実践演習をしていく予定である。

＜社会＞

残りの期間においては「知識の定着」を主な課題として扱っていく。思考問題の前に知識の下支えの部分での課題を解決していくため、各時間での小テストや、単元ごとのテストを実施し、知識の定着を目的としていく。

＜数学＞

府平均を上回っているが、わずか0.3ポイントである。改めて各領域の基礎を向上させ、正答率を上げたい。また、発展的な問題演習も個々に応じて取り組んでいく必要がある。

＜理科＞

最近学習した3年生の内容については他に比べて高い正答率が確認できたため、1・2年生の学習内容の復習をする時間をしっかり取り、受験に備える。

＜英語＞

単語テストや文法の小テストをしながら基礎の定着を計る。また、長文読解力をつけるためにREADINGの時間を増やし内容の理解力を高める。単純な文法を使った自由英作の数を増やし文法の基本的な知識を定着させる。

○GTEC

授業や課外活動を通じてスピーキング・ライティングの練習機会を増やし、実践的な英語力を養うことを目指します。さらに、試験結果を活用した個別指導を行い、生徒一人ひとりの課題に応じた学習サポートを強化していきます。

○中学生チャレンジテスト(1, 2年生)、チャレンジテストplus(1年生)

＜国語＞

学年によって課題は異なるが、今後も継続して作文指導や、記述問題対策の時間を増やすことが必要不可欠である。書く力や読む力を伸ばすためにも、教科書の問題だけではなく応用問題等も解かせる時間を設ける。また無回答率も低くするべく、問題を諦めず解く姿勢もつけていかなければならない。単元テストや、漢字テスト、家庭学習の促進などをして、学力を向上させていきたい。

＜社会＞

1, 2年生ともに数値が下がっていることから、授業改革は必要不可欠であると考えられる。全体に目を向けることはもちろん、個別最適な学びを成立させるため、ICT機器を活用した課題を出すことや、テスト前に、単元の躰きの場所をそれぞれ発見することのできる取り組みなどが必要であると考えられる。

＜数学＞

各学年によって課題は異なるが、まずは知識・技能の定着を目指す。小テスト等で定着度を測りながら、反復して問題演習を行っていききたい。また、応用問題も授業で多く取り上げて、定着させた知識・技能を活用させる力をつけ、数学的な思考力を深めていきたい。

＜理科＞

実験や観察と実際のテスト問題が結びついていないため点数としてなかなか表れないのが課題である。実験や観察は一生懸命取り組んでくれるが、楽しかったというだけで終わらず、結果から何がわかるかまで考えられるようにするのが重要である。

＜英語＞

1年生については、「書くこと」の指導を充実させていく。身近な話題を用いて、英作することに慣れさせる。また、C-NETと協力し、ポスター作りなどの書く活動を行うことで、生徒が意欲的に学習する機会を増やしていく。

2年生については、「聞くこと」と「書くこと」の指導を充実させていく。リスニング問題を帯活動で実施するなど英語を聞く機会をさらに増やす。また、生徒が興味のある話題について英作を行うことで、英語を書くことへの抵抗感を和らげていく。

全学年通して、クイズ形式で単語を覚えたり、デジタルドリルを使用し既習事項の復習をしたり、スモールステップで4技能の向上をめざす。

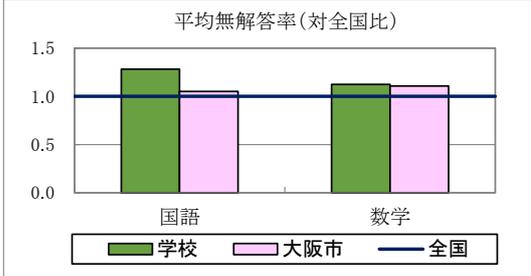
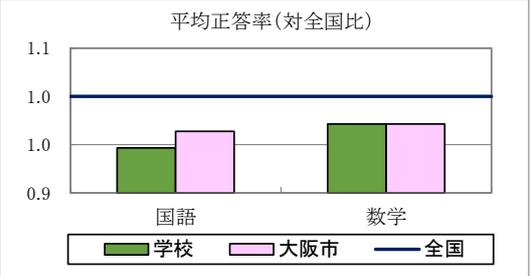
令和6年度 梅南中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

【成果と課題】
○全国学力・学習状況調査結果

	平均正答率(%)	
	国語	数学
学校	55	51
全国	58.1	52.5

	平均無解答率(%)	
	国語	数学
学校	5.0	12.7
全国	3.9	11.3

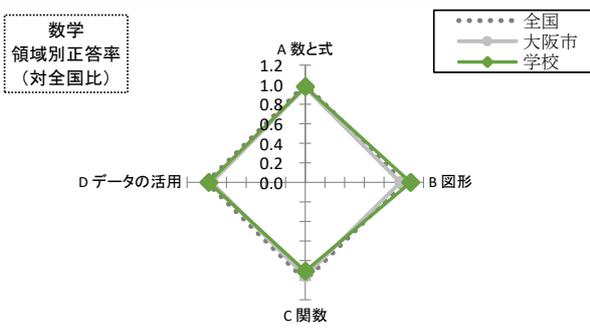
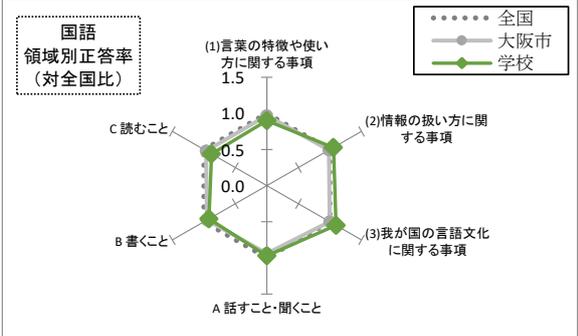
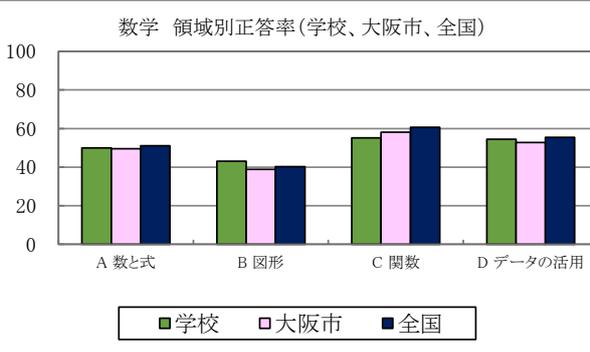
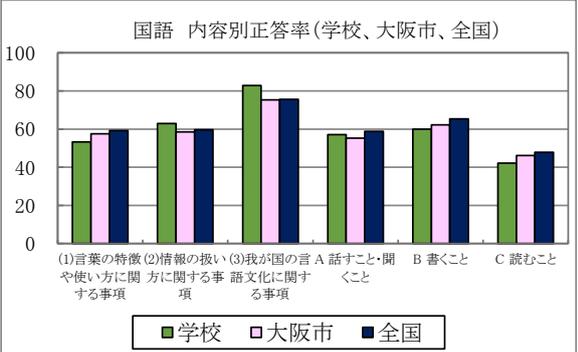


【国語】

【数学】

学習指導要領の内容	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方に 関する事項	3	53.3	57.5	59.2
(2)情報の扱い方に 関する事項	2	62.9	58.5	59.6
(3)我が国の言語文化に 関する事項	1	82.9	75.3	75.6
A 話すこと・聞くこと	3	57.1	55.2	58.8
B 書くこと	2	60.0	62.2	65.3
C 読むこと	4	42.1	46.2	47.9

学習指導要領の領域	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と式	5	50.0	49.6	51.1
B 図形	3	43.1	38.9	40.3
C 関数	4	55.1	58.1	60.7
D データの活用	4	54.4	52.8	55.5



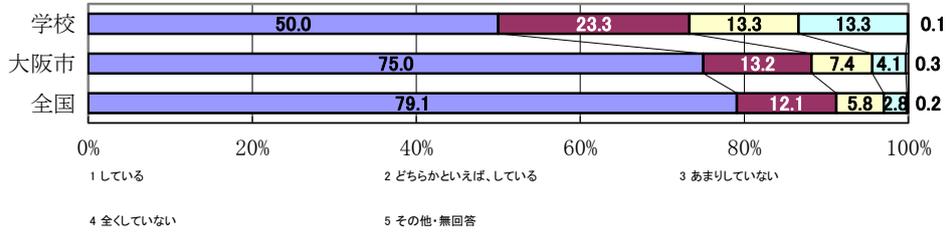
令和6年度 梅南中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

生徒質問より

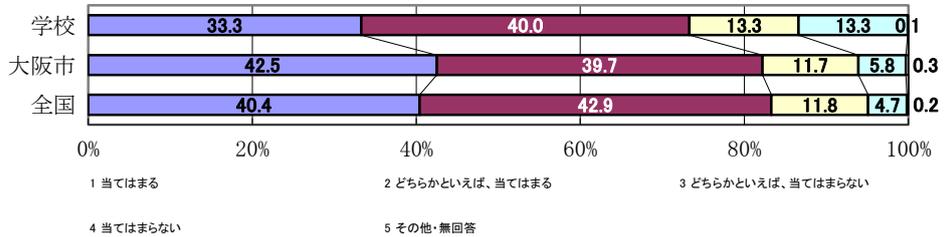
1 2 3 4 5 6 7 8

質問番号
質問事項

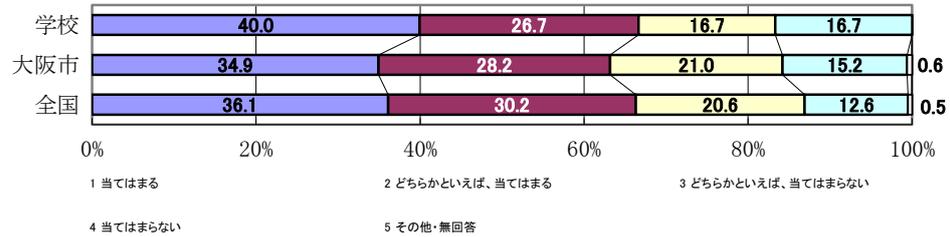
1
朝食を毎日食べていますか



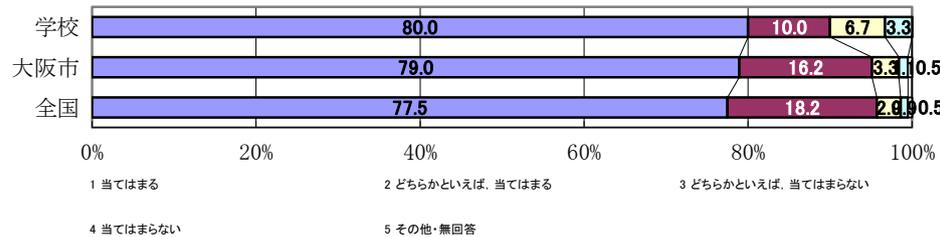
9
自分には、よいところがあると思いますか



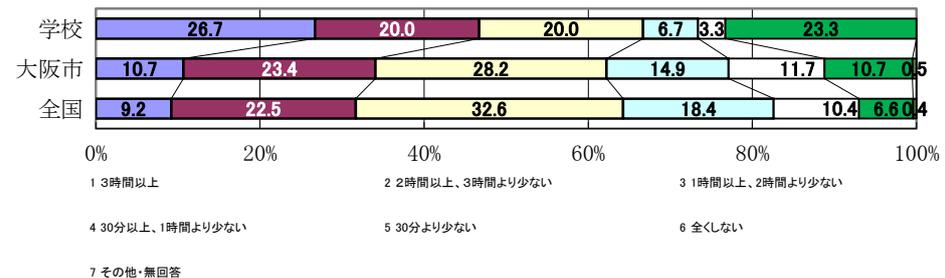
11
将来の夢や目標を持っていますか



13
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか



21
学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)



令和6年度 梅南中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

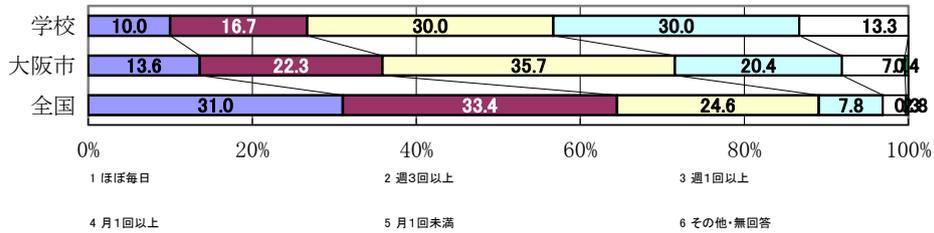
生徒質問より

1 2 3 4 5 6 7 8

質問番号
質問事項

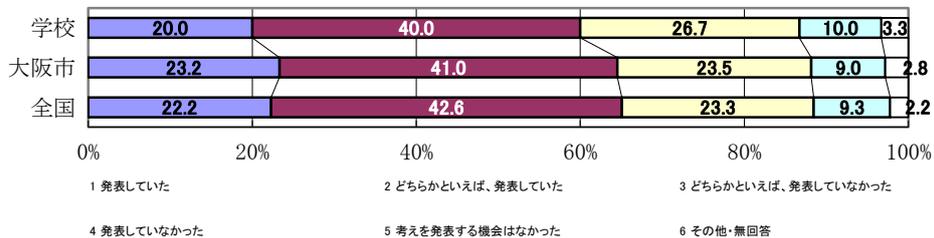
27

1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか



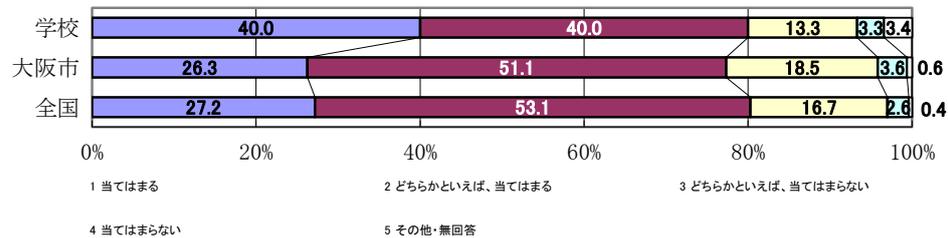
29

1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか



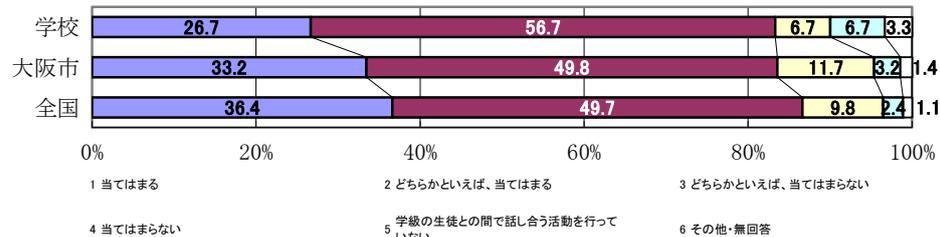
30

1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか



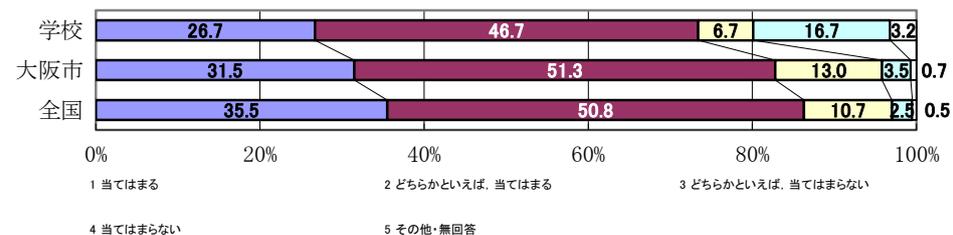
33

学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか



39

あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか



令和6年度 梅南中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

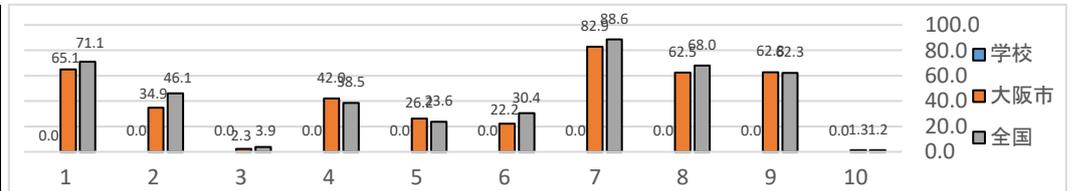
生徒質問より (26)

LEV

質問番号
質問事項

26

放課後や週末に何を
して過ごすことが多い
ですか(複数選択)



1 学校の部活動に参加している

2 家で勉強や読書をしている

地域の活動に参加している(地域学校協働本部や地域住民などによる学習・体験プログラムを含む)

4 学習塾など学校や家以外の場所で勉強している

5 習い事(スポーツに関する習い事を除く)をしている

6 スポーツ(スポーツに関する習い事を含む)をしている

7 家でテレビや動画を見たり、ゲームをしたり、SNSを利用したりしている

8 家族と過ごしている

9 友達と遊んでいる

10 1~9に当てはまるものがない

令和6年度 梅南中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

学校質問より

□ 1 □ 2 □ 3 □ 4 □ 5 □ 6 □ 7 □ 8 □ 9 □ 10

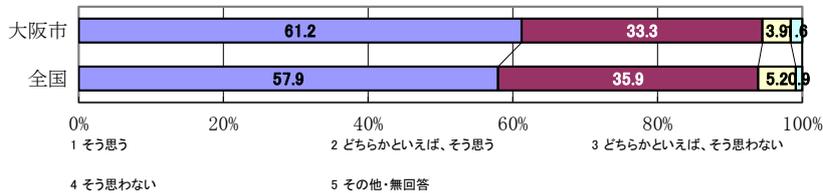
【成果と課題】

質問事項

7

調査対象学年の生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか

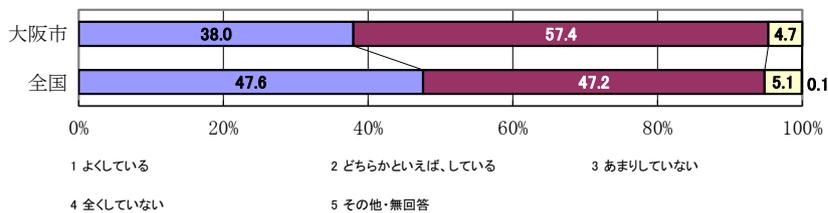
学校「そう思う」を選択



16

授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか

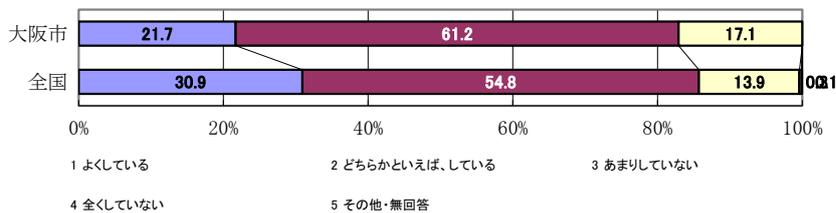
学校「よくしている」を選択



17

生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行っていますか

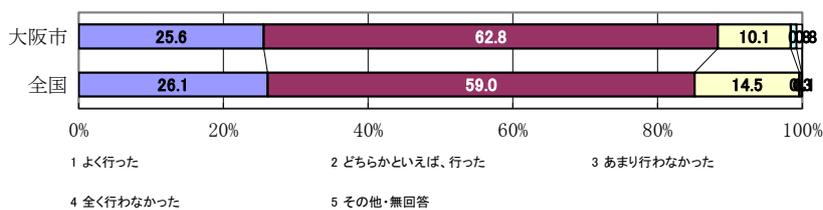
学校「よくしている」を選択



33

調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、授業において、生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか

学校「よく行った」を選択



60

調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか

学校「ほぼ毎日」を選択

